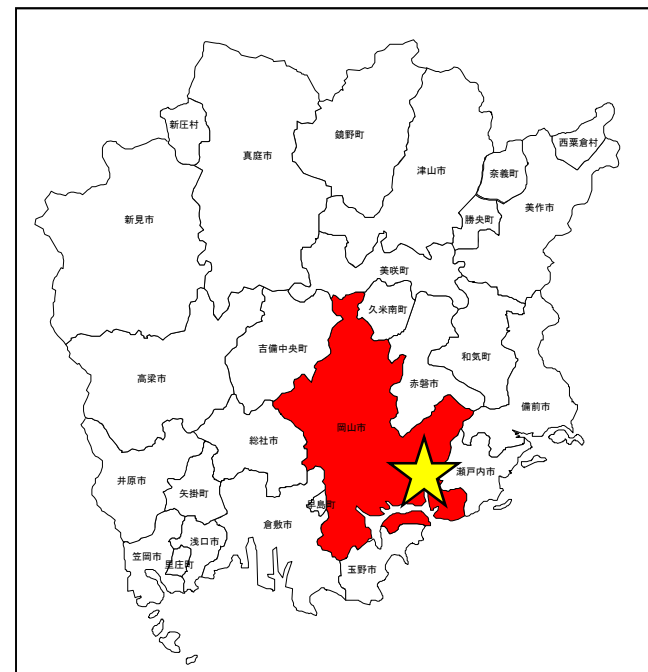


申請内容（西大寺浜）

審議会資料 2 - 1

申請団体	吉井川ハマウツボ・ネットワーク
申請区域	東区西大寺浜（豊小学校区）
シンボル	ハマウツボ



シンボル（ハマウツボ）の概要

分布状況：

現時点で、岡山県内の確実な自生地は吉井川（岡山市）の河川敷または堤防とのこと。

国内では全国に分布するが、多くの都道府県でレッドデータ指定種となっている。

主な特徴：

キク科ヨモギ属の植物に寄生する寄生植物で、河川敷や海岸の砂地に生育するカワラヨモギを主な寄主としている。岡山県では4～5月にかけて紫色で2 cm程度の筒状の花を多数咲かせる。

指定状況：

環境省及び岡山県のレッドデータブックにおいて絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。

ハマウツボの生育・生息地の現況

※ 希少種の生息情報であるため非開示

申請団体発足の契機

- 2010年（平成22年）、申請団体の副会長が吉井川堤防沿いを散歩中に発見。
- 重井薬用植物園に持ち込んだところ、希少種のハマウツボであることが判明。
- 当時、岡山市内では31年ぶりの標本による生育確認となり、新聞記事となった。以降、保護活動を開始。
- 重井薬用植物園の片岡園長と保護地の相談をし、現在の活動場所にカワラヨモギを移植し、ハマウツボの種をまいた。



主な活動内容

通年	生息地の草取り・草抜き、河川敷のごみ拾い等
5月	砂地のいきもの観察会を開催 (2015年から実施)
10月	西大寺公民館と連携し、公民館講座として「ハマウツボの保全活動」を実施 (2020年から実施)
12月	公民館協力のもと高校生ボランティアを募り、草取りを実施 (2020年から実施。初回は学芸館高校ボランティア部が参加した。)

活動の様子

砂地の草抜き



砂地のいきもの観察会



砂地のいきもの観察会



高校生ボランティアとの草取り



今後の展望

【申請団体の意向】

- ハマウツボに限らず、干潟を含む海浜・汽水域の砂地環境に特徴的な生物多様性の保全という観点で活動を実施していく
- 今後、活動場所や保護する対象の範囲を広げていきたい
- 観察会等のイベント時に会員を募集するなどして、会員を増やしていきたい

認定基準の適合状況

(1) シンボル：ア及びイを満たし、ウ又はエのいずれかを満たすこと

ア 申請区域内に生息又は生育している在来種（以下、略）	○
イ 申請区域において、保全活動への地域住民、土地所有者等の参画を促すことができると認められる種	○
ウ 絶滅のおそれのある野生生物	○
エ その生息又は生育が良好な自然環境の指標となり得る野生生物	○

(2) 申請区域

ア 将来にわたって良好な生物多様性の保全が期待されること	○
イ 申請区域の住民間で保全活動に関する共通の理解が図られ、申請区域に含まれ、又は申請区域を含む各小学校区内において、概ね統一した保全活動の実施が見込まれること	○